

日本衛星ビジネス協会は、11月10日(月)、総勢35名の参加を得て、東京都江東区にあるスカパーJSAT 株式会社様(以下「スカパーJSAT」)の東京メディアセンターにて、施設見学会を開催しました。

スカパーJSAT は、日本で唯一、衛星放送のプラットフォーム事業と衛星通信事業を行う会社です。341万(2014年10月現在)の人々が視聴する有料多チャンネル事業と、世界第5位の売上高を誇るアジア最大の衛星事業を両輪とするハイブリッドな強みを最大限に発揮しながら、有料多チャンネル事業においては、業界に先駆けて4K放送を実現するなど多チャンネル放送の魅力と楽しさを広げています。

東京メディアセンターは2008年8月に竣工、「スカパー！」の放送は、この「スカパー東京メディアセンター」を発信源として、各チャンネルの放送事業者から光ファイバーなどで送られてくる番組素材のデジタル圧縮化処理を行い、電子プログラムガイド(EPG)などを多重化して衛星へアップリンクし、全国へ配信しています。

また、東京メディアセンターでは、一般社団法人次世代放送推進フォーラム(NexTV-F)が2014年6月より放送を開始した、日本初の4K専門チャンネル「Channel 4K」の送出業務を請け負っています。

さらに、2015年3月には、スカパー！プレミアムサービスにおいて4Kチャンネルの2局同時開局が予定されており、現在、東京メディアセンターでは、その設備構築を進めています。



写真撮影：小川泰祐

今回の施設見学会では、技術運用部門 放送技術本部 プラットフォームシステム部長の仙澤隆様より『4K放送実用化の取り組み』というタイトルで、ご講演を頂きました。



はじめに、国内最大の衛星放送の送出拠点として、東経124度/128度のCS向け送信(スカパー！プレミアムサービス)、東経110度向けCS送信(スカパー)、BSの一部送出(スカパー)業務を担っている東京メディアセンターの概要や歴史、CS放送の生い立ちや変遷などをご紹介頂きました。

続いて、『4K 放送実用化の取り組み』として、設立時から参画し中心的な存在を担ってきた「次世代放送推進フォーラム(NexTV-F)」や「放送サービスの高度化検討会」などにおける取り組みや実績、今後の更なる利用推進に向けた開発の動向についてお話頂くとともに、4K/8K と HD の技術的な比較や、衛星放送において効率よく利用するための圧縮技術などについて、分かり易くご説明頂き、非常に幅広く、興味深いお話を伺うことができました。



その後、スカパー東京メディアセンター長 高田貴司様、メディアセンター管理部 謝花政彦様のご案内により、東京メディアセンターの施設を見学させて頂きました。



屋上に設置されているアンテナ設備、地下1階にて東京メディアセンターを震災から支えている免震装置や津波などへの浸水対策、また CS110 度、124 度/128 度、BS 映像の符号化・暗号化・EPG 生成・多重化などを行うとともに 100 を超えるモニタ設備を備え 24 時間 365 日体制で運用・監視を行っているプラットフォームマスター、4K 技術・放送に対応した最新の 4K マスターなどを見学。

見学途中には、自社番組制作に係るスタジオでの撮影風景なども垣間見ることができ、普段体験する機会のない様々な施設を、専門家のご説明をいただきながら Q&A を交え、楽しく見学することができました。



番組の制作から映像技術を駆使した映像送信業務、さらに衛星を介して各家庭に映像サービスが届くまでの過程を、また日本の最新技術を駆使した今後将来の 4K 技術にも触れることができ、大変興味深い、充実した施設見学会となりました。

今回、お忙しい中、施設見学を受け入れて頂きましたスカパーJSAT 東京メディアセンターの皆様、本当にありがとうございました。

また、施設見学、懇親会に参加いただいた会員の皆様、お疲れ様でした。次回、総会でお会いしましょう。